

災害ボランティアの安全衛生対策マニュアル

VER 4.1

作成：日本予防医学リスクマネジメント学会幹事
洙田靖夫（医師・労働衛生コンサルタント）

このマニュアルの履歴

VER 1（水害編）	平成16年（2004年）	7月21日	作成
VER 2（水害編）	平成16年（2004年）	10月22日	作成
VER 3	平成16年（2004年）	11月1日	作成
VER 4	平成17年（2005年）	7月1日	作成
VER 4.1	平成17年（2005年）	7月7日	作成

災害活動時に亡くなられたボランティアのご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

【ご使用にあたっての注意点】

（必ずお読みください）

このマニュアルは、地震や風水害の復旧復興作業に従事するボランティアが作業を通じて死亡したり、病気や怪我をしたりすることを防ぐために書かれたものです。使用に際しては、実情に合うように変更し、自己責任でご活用ください。なお、日本予防医学リスクマネジメント学会は、本マニュアルに関して何らの責任も負わないことといたします。

【はじめに】

（お急ぎの方は飛ばしてください）

昨年は、災害の多い年であった。風水害用のボランティア安全衛生対策マニュアルを作成してきたが、新潟県中越地震が起こったのに合わせて、震災用にも使用できるマニュアルVER 3を上梓した。今年も6月末から7月初めにかけて、新潟県をはじめ全国各地で大雨が降っており、内容を再検討する必要があった。

おりしも、災害ボランティア検討会（内閣府主催）が本年3月から6月にかけて計3回開催されており、災害ボランティアの安全衛生に関する議論が行われた。この議論や専門家の助言等を踏まえて、VER 3に資料を追加し、内容を充実させて、VER 4を作成した。これに多少の文言の変更を加えることによりVER 4.1とした。

本年6月末から7月初めにかけて大雨が降っている新潟県は、昨年の新潟県中越地震の被災地でもあった。新潟県に限らず、地震で地盤が緩んでいる地域は、その下流域も含め土石流の危険が高まっていると思われるので、ボランテ

ボランティア作業は降水量（上流域を含む）など土砂災害のリスクに細心の注意が必要になるのではないだろうか。

また、気象条件を考慮する必要がある。たとえば、「新潟県は日本海側で豪雪地帯なので、夏は涼しい」という間違っただ印象を持っているボランティアもいるかも知れない。また、九州は温暖であるという先入観を持ったボランティアが北九州の冬の寒さに驚くこともあろう。

日本は、地域によって多種多様な気候であるので、地元の関係者におかれては常識的なことでも、他地域より訪れるボランティアに対して、服装などの装備を決定する前提となる気象条件（気温など）を分かりやすく広報すべきだろう。

平成16年版防災白書によると、ロシアタンカー「ナホトカ号」海難・油流出災害（1997年1月）では、ボランティア延べ人数が27万4,607人であった。このうち、5名が死亡している。いいかえると、ボランティア約5万5千人に1人の割合で死亡していることになる。

ナホトカ号油流出災害以後は、長らくボランティアが死亡したという報告はなかったものの、昨年、新潟県中越地震のボランティア活動中に粉塵が原因の過敏性肺臓炎により1名死亡した。粉塵はまれに短期間で病気を起こすこともあるが、粉塵の多くは例えばアスベストのように専門的で長期的な対策が必要になる。

粉塵に限らず循環器疾患など、ボランティアの安全衛生に直結するリスク管理は、高度の知見が要求されるので、ボランティアセンターやボランティアコーディネーターは安全衛生に関係する専門家（たとえば産業医、労働安全衛生コンサルタント、都道府県産業保健推進センター、医師会等）との連携をより深めていくべきだろう。

労働者に対しては、労働基準法・労働安全衛生法などの仕組みがあるので、事業者が安全衛生対策を行うことは当然の義務とされ、公的な支援体制も整備されている。しかしながら、災害ボランティアは突発的に災害に対応して動くことも多いので、労働者と同等の安全衛生水準を迅速に用意するのは困難である。ゆえに平時から、「労働安全衛生を参考にしたボランティアの安全衛生のしくみづくり」の準備を行う必要がある、このマニュアルの存在意義もここにあると思う。

ボランティア保険も、当然のことながら、その保障は無限ではない。ボランティア一人ひとりがボランティア保険の保障する範囲を知るべきであり、その範囲を超える活動を行う場合には、ボランティア自身で何らかの対策を練っておく必要がある。特に健康リスクの高い人や、家族および社員を養う必要のある人は、万一の際に被災地に迷惑をかけることのないよう、準備をしてから活動に望むべきである。

ボランティアは、自由度が非常に高いが、自己責任が原則である。ボランティア自身が安全衛生に関する知識を習得し、自身の健康リスクや経済リスクを含め各種のリスクを回避（予防）し、被害を被ればこれを補償する手段を、他人任せ・被災地任せにせず、身に付けておくことも重要な「ボランティアの自

己責任」であると思う。

今回の水害においても、ボランティア活動の継続性の基盤となる安全衛生対策を充実し、復旧復興作業に携わるボランティアの心身が健康であり、負傷や病気、そして死亡がゼロで終わることを願ってやまない。

【お願い】

このマニュアルは、災害ボランティアの衛生管理を扱いますが、災害時の公務員や民間企業の従業員の活動にとっても、ある程度までは参考になるように書かれております。

ご意見等がございましたら、下記のアドレスまでお送りください。

volanei@yahoo.co.jp

目 次

1 . 前日までにやること	・ ・ ・ ・ ・ 5
1 - 1 . 情報収集と連絡調整	・ ・ ・ ・ ・ 5
1 - 2 . 作業の決定	・ ・ ・ ・ ・ 5
1 - 3 . ボランティア募集	・ ・ ・ ・ ・ 5
1 - 4 . 作業環境の整備	・ ・ ・ ・ ・ 5
1 - 5 . 作業参加予定者への連絡	・ ・ ・ ・ ・ 5
(資料1)災害ボランティアのみなさまへ 安全衛生面のご注意	・ ・ ・ ・ ・ 6
2 . 作業当日にやること	・ ・ ・ ・ ・ 7
2 - 1 . 作業前におこなうこと	・ ・ ・ ・ ・ 7
2 - 1 - 1 . (ボランティア) 受付	
2 - 1 - 2 . 健康チェック	
2 - 1 - 3 . 作業振り分け	
2 - 1 - 4 . オリエンテーション	
2 - 1 - 4 . a) 作業内容説明	
2 - 1 - 4 . b) 安全衛生面での注意	
2 - 1 - 5 . 装具 (保護具) の確認、貸付・供与	
2 - 2 . 作業中にやること	・ ・ ・ ・ ・ 7
2 - 2 - 1 . 現場への移動	
2 - 2 - 2 . 休憩	
2 - 2 - 3 . 食事	
2 - 2 - 4 . トイレ	
2 - 2 - 5 . 水分および塩分補給	
2 - 2 - 6 . 点呼	
2 - 2 - 7 . 本部への定時報告	
2 - 2 - 8 . 現場巡回	
2 - 3 . 傷病が発生した時の対処	・ ・ ・ ・ ・ 8
2 - 3 - 1 . 失命の危険があるとき	
2 - 3 - 2 . 失命の危険がないとき	
(資料2)ボランティアの安全衛生管理のための現場巡回チェックリスト	・ ・ ・ ・ ・ 9
2 - 4 . 作業後にやること	・ ・ ・ ・ 10
2 - 4 - 1 . 本部への報告	
2 - 4 - 2 . 問題点の整理	
2 - 4 - 3 . 関係者との協議	
(資料3)安全衛生リスクカード	・ ・ ・ ・ 11

1．前日までにやること

1 - 1．情報収集と連絡調整

作業の決定に必要な情報を収集する。復旧作業が必要な箇所を拾い出し、カードまたは台帳を作成し、地図に記入する。必要ならば、現地視察を行い、安全衛生面をチェックする。

1 - 1 - 1．場所

安全な作業が行える場所であるかチェックする。また、現場の移動に問題がないかをチェックする。

1 - 1 - 2．気象条件

翌日の天候や気温等をチェックする。

1 - 1 - 3．被害状況

建物や施設・設備の被害状況を調べる。安全な作業ができるかどうかチェックする。

1 - 1 - 4．ボランティア保険

ボランティア保険の準備を行う。補償内容をチェックする。

1 - 1 - 5．その他

その他、必要な事項をチェックする。

1 - 2．連絡調整

地元市町村（消防を含む）や保健所、医療機関、医師会、都道府県産業保健推進センター、労働安全衛生コンサルタント会等と連絡調整する。内容は、緊急時の対応、作業者の健康管理に対する協力要請（情報提供、休憩場所・トイレの確保、保険、広報等）である。

1 - 3．作業の決定

必要性や安全衛生面の配慮等を考え合わせて作業場所と内容を決定する。決して無理な作業を行ってはならない。

1 - 4．作業環境の整備

ボランティアセンター本部や休憩場所は原則禁煙とし、喫煙場所を設定する。

1 - 5．作業参加予定者への連絡

ボランティアの募集や、注意事項、持参品等を広報または連絡する。

(資料1)

災害ボランティアのみなさまへ 安全衛生面のご注意

ボランティア現地本部

氏名		活動場所		年 月 日 ~ 年 月 日
----	--	------	--	---------------

このたびは、遠路はるばる被災地までお越しいただき、復旧作業に従事していただきまして、ありがとうございます。
ご存知のように、被災地は非常に環境が悪く、人間の健康に悪影響がございます。例えば、ケガをすることで、破傷風にかかるリスクが高くなっています。また温度や湿度の高い場所での作業やビニールなど通気性の悪い服などで作業されますと、場合によっては、熱中症にも注意が必要ですし、食中毒の予防も真剣に考えなければなりません。

これに加えて、ボランティアさん自身の体調も気を配る必要があるでしょう。たとえば、心臓病や高血圧、糖尿病があれば、自ずと作業内容も決まってくるのではないのでしょうか。

そこでボランティア現地本部といたしましては、ボランティアさんがケガや病気をしないように、ささやかながら、ご援助申し上げたいと存じます。

1. 破傷風対策・・・ケガをしないよう、保護具（長袖の服、手袋、長靴など）を必要に応じて着用してください。深い刺し傷ができると、そこから破傷風菌が体内に入ります。潜伏期間は3～10日とされています。ボランティア作業後、身体の不調を感じて、医療機関を受診される時は、この紙を医師に提示するか、水害の復旧作業を行ったことを伝えてください。

2. 熱中症対策・・・高温多湿の環境下で重労働を行うと、熱中症になりやすくなります。また、寒い時期でもビニールなど通気性の悪い衣服を着て重労働を行うと、多量の汗をかきます。スポーツドリンクを飲むなど、水分および塩分の補給と、十分な休憩を取ってください。睡眠不足やアルコールの大量摂取は、熱中症のリスクを高めますので、ご注意ください。

3. 循環器病（心臓病や脳卒中、高血圧など）対策・・・寒冷時に多発します。過去に心臓病や脳卒中に罹っている人は、重労働を伴うボランティア作業をお断りすることがあります。また、糖尿病やコレステロールの高い人、高血圧の人は、心臓病や脳卒中になるリスクが高いのでご注意ください。

4. 健康チェックカードへの記入・・・被災地以外の方がボランティアをされる場合は、当然のことながら、被災地にかかりつけの医師がいませんので、基本的な健康状態の把握ができません。健康上のリスクのある方が、ボランティア作業中に突然倒れるという事態になったら、ボランティア本人はもとより、ご家族の方も困りますし、被災地にも迷惑がかかります。申し訳ありませんが、健康チェックカードへのご記入をお願いします。なお、この個人情報は、別に取り決めた場合を除き、あなた自身の健康管理にのみ使用し、他の目的には使わないものとします。また、その取り扱いには最大限の配慮を行うものとします。

----- き ----- り ----- と ----- り ----- せ ----- ん -----

健康チェックカード

ふりがな		男		〒 -
氏名		女	住所	
		歳		
電話		緊急時連絡先		
1. 10年以内に破傷風の予防接種(3種混合や2種混合など)を受けましたか? (はい・いいえ)				
2. 高血圧の薬を飲んでいますか? (はい・いいえ)			3. ふだんの血圧を書いてください。 /	
4. 心臓病はありますか? (1) ない (2) 以前、治療したことがある (3) 現在、治療中である (4) 治療をすすめられたが、放置している				
5. 糖尿病はありますか? (1) ない (2) 以前、治療したことがある (3) 現在、治療中である (4) 治療をすすめられたが、放置している				
6. その他の病気はありますか? (ある[]・ない)				
7. 治っていない怪我はありますか? (ある・ない)			8. 血液型 A・B・AB・O Rh(+・-)	

災害対策の研究目的で、個人が特定されない形で、この個人情報を統計処理することに 同意する。 同意しない。

2．作業当日にやること

2 - 1．作業前におこなうこと

2 - 1 - 1．(ボランティア) 受付

受付時に、健康チェックカードに記入してもらう。項目は、氏名、性別、年齢、平常時の血圧、前日の睡眠時間、前日の飲酒、治療中の病気の有無（心臓病、脳卒中、糖尿病は必ず聞く）、過去になった病気（心臓病、脳卒中、熱中症は必ず聞く）などである。

2 - 1 - 2．健康チェック

健康チェックカードおよび本人からの聞き取りに基づき、健康チェックを行う。高齢、高血圧、短い睡眠時間、前日の大量飲酒、治療中の病気、過去になった病気等を参考に参考にする。医療スタッフがいる場合には、必要に応じて相談する。

2 - 1 - 3．作業振り分け

作業の必要性和安全衛生面の配慮、作業者の健康状態を考え合わせて作業を振り分ける。

2 - 1 - 4．オリエンテーション

2 - 1 - 4．a) 作業内容説明

どこで、どのような作業を何時から何時まで行うかを説明する。

2 - 1 - 4．b) 安全衛生面での注意

暑い時期なので、熱中症（日射病など）に注意する。怪我をしないように安全な作業をする。単独行動は危険なのでしない。お互いの健康状態に常に気を配る。無理な姿勢をとったり、重量物を扱うと腰痛が発生するので注意を喚起する。

2 - 1 - 5．装具（保護具）の確認、貸付・供与

必要に応じて、帽子・ヘルメット・手袋・安全靴・地下足袋・マスク・ゴーグル等を持っているか確認し、持っていない場合は、貸し付けるか供与する。

2 - 2．作業中にやること

2 - 2 - 1．現場への移動

交通事故に注意する。長時間歩く場合は、熱中症（日射病など）に注意する。

2 - 2 - 2．休憩

1時間に1回程度休憩する。休憩場所は直射日光の当たらない涼しく安全な場所が望ましい。暑い日は身体がだるくなり、水を飲む気力もなくなるので、休憩時には水分と塩分を補給する。全員が水分と塩分を補給したかどうかを確認する。

2 - 2 - 3 . 食事

食事時間を確保し、食前には手を石鹸で洗う。水と石鹸がない場合は、ウェットティッシュを使う。食後の休憩をとる。

2 - 2 - 4 . トイレ

トイレ、特に女子トイレの確保が重要である。これがないと、作業参加者によっては、トイレに行きたくないという気持ちが強くなり、水分摂取を我慢してしまい、脱水による熱中症を引き起こすリスクが高まるからである。

2 - 2 - 5 . 水分および塩分補給

汗で水分と塩分が失われるので、補給が必要である。寒冷時の作業においても、ビニールなど通気性の悪い衣服を着用して重労働を行うと汗をかく。スポーツドリンクが望ましいが、なければ水を飲んだとき食塩（塩辛い食品）を食べる。水分だけ取ると熱中症になるリスクが高まる。

2 - 2 - 6 . 点呼

現場監督者（リーダー）は、全員がそろっているかどうか、常に気を配る。休憩時や昼食時には必ず点呼する。都合により途中で帰った者がいる場合は、その旨を参加者全員に知らせる。知らせておかないと無用の心配を生むからである。

2 - 2 - 7 . 本部への定時報告

休憩時等を利用して、本部へ定時報告する。本部は、定時報告がない場合は、本部から現場に連絡する。

2 - 2 - 8 . 現場巡回

本部スタッフは、現場を巡回し、問題点がないかどうかチェックする。

2 - 3 . 傷病が発生した時の対処

2 - 3 - 1 . 失命の危険があるとき

大量の出血や意識を失ったり、胸や頭に激しい痛みがある場合などは、失命の危険があるので、救急車などの手配をするとともに、人工呼吸・心マッサージなどの応急手当を行う。

2 - 3 - 2 . 失命の危険がないとき

失命の危険のあるなしは、本来医師が判断すべきものであるが、ちょっとしたケガや風邪引きなど常識的に生命の危険がないと思われる場合は、程度に応じて、その場で手当をするか病院に行けばよい。しかしながら、チームリーダーには報告すべきである。チームリーダーは、必要に応じて救護所の医師等に報告する。深い刺し傷などは破傷風にかかる恐れがあるので十分に注意する。

(資料2)

ボランティアの安全衛生管理のための現場巡回チェックリスト

巡回日時： 年 月 日 () 午前・午後 時 分 ~ 午前・午後 時 分

巡回者氏名：

現場名 (または住所)：

現場責任者氏名：

チェックリスト回答者氏名：

現場作業人数：男性 名、女性 名、合計 名

作業開始時間：午前・午後 時 分

作業終了予定時間：午前・午後 時 分

作業終了時間：午前・午後 時 分

救急患者搬送先医療機関

医療機関名 () ・知らない

住所 () ・知らない

電話 () ・知らない

119番通報 (消防・救急) 110番通報 (警察)

携帯電話からの通報 可能・不可能 可能・不可能

公衆電話からの通報 可能・不可能 可能・不可能

一般電話からの通報 可能・不可能 可能・不可能

ボランティア本部 (tel. - -) との連絡手段

携帯電話 (可能・不可能) 公衆電話 (可能・不可能) 一般電話 (可能・不可能)

無線 (可能・不可能) 車両 (可能・不可能) その他 ()

危険物および危険場所 あり () ・なし

(ありの場合) 危険物や危険場所の対処 した () ・しない

休憩場所 あり (場所：) ・なし

昼食場所 あり (場所：) ・なし

トイレ あり (場所：) ・なし

飲料水 十分・不十分・なし

(不十分・なしの場合) 飲料水の確保 した () ・しない

安全衛生管理の説明 行った・行わない

2 - 4 . 作業後にやること

2 - 4 - 1 . 本部への報告

安全衛生に関して現場で起こったことを一覧表にまとめて報告する。

2 - 4 - 2 . 問題点の整理

本部では、各現場で生じた問題点を整理し、対応策を練る。安全衛生上のリスクをカード化し、本部内で対処できる場合は、対応策をカードに記入する。

2 - 4 - 3 . 関係者との協議

問題点の解決のため、必要に応じて専門家（労働安全衛生コンサルタント、都道府県産業保健推進センター、産業医、医師会等）と協議する。また、インターネットに情報を発信して、外部からの情報支援を受ける。

(資料3)

安全衛生リスクカード

事前対策	リスク	事後対応	
	関連リスク		

リスクを紙に書くなどして明示すべきであるということは、第1回災害ボランティア検討会（内閣府主催）で指摘しましたが、具体的にどのように表現するかの一例を上記に示します。事前対策や事後対応が良くわからない場合は、空白にしておき、情報発信をして、専門家に考えてもらえばよいと思います。

【後記ならびに謝辞】

防災和座、公衆衛生ネットワーク、産業医学メーリングリスト、災害情報メーリングリスト、オイルメーリングリストおよびTFCなど、各種メーリングリストでの議論を参考にして作りました。改めて御礼申し上げます。

また、大阪狭山青年会議所で2期連続して理事長を務めた経験や日本青年会議所国境なき奉仕団の体験がマニュアル作成に大いに役立っております。

また、早朝に起きてゴソゴソしていた私を暖かく見守ってくれた妻にも感謝をささげます。